

北朝鮮の核実験中止「歓迎」

全ミサイル廃棄目標

主要7カ国(G7)外相会合が22日、カナダのトロントで開幕した。初日のこの日は北朝鮮問題を中心に話し合われ、北朝鮮が核実験と大陸間弾道ミサイル(ICBM)試射の中止を表明したことについて、「前向きな動きとして歓迎する」との認識で一致した。さらに、北朝鮮の大量破壊兵器と、全ての射程のミサイル廃棄の実現を目標とする点でも一致した。

G7外相会合

G7外相会合の開催は、北朝鮮が金正恩朝鮮労働党委員長の「新年の辞」をきつかけに対話の動きを見せ

て以来、初めてとなる。23日までの2日間行われる。会合後の河野太郎外相の説明などによると、G7外

相らは北朝鮮の今回の表明を「一歩前進」と受け止めつつ、非核化に向けた動きを注視する必要があるという点で認識を共有した。河野氏は記者団に、「北朝鮮の非核化が行われるまで、『最大の圧力』を維持しなければならぬことでも一致した」と強調した。

6月初旬までに実現を目指す米朝首脳会談をめぐっては、トランプ米大統領の腹心、ポンペオ中央情報局長(CIA)長官らが北朝鮮側と水面下で交渉を続けて

いる。ポンペオ氏は次期国務長官に指名されているが、議会承認が間に合わなかったため、今回のG7の会合にはサリバン国務長官代行が参加した。

この日は、シリア情勢も大きな焦点となった。アサド政権による化学兵器使用疑惑に対し、G7の米英仏は、報復措置として政権軍の「化学兵器関連施設」にミサイル攻撃に踏み切っている。河野氏は会場で、化学兵器の使用者を常に国際社会が特定できるようにメカニ